

平成22年度病害虫発生予察注意報第3号

平成22年7月22日
愛知県

作物名：果樹類（モモ、ナシ、ブドウ、カキ、カンキツ）

病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発令の根拠

- (1) 気温の上昇とともに果樹カメムシ類の活動が活性化し、豊橋市の予察灯において5月から6月の2か月間で誘殺された果樹カメムシ類は、チャバネアオカメムシが1,076頭（平年165頭）、ツヤアオカメムシが544頭（平年76頭）、クサギカメムシが24頭（平年5頭）であり、平年に比べて多い。
- (2) 7月第4半旬から豊川市及び豊田市のフェロモントラップの誘殺数が急増した（図）。果樹園への飛来が増加していることが予想される。
- (3) モモ、ナシにおいて果樹カメムシ類の越冬成虫による被害が多く、例年7月上旬には被害があまり発生しないカキ、カンキツにおいても一部のほ場で被害が発生し始めている。
- (4) 果樹カメムシ類は、6月下旬以降にスギ・ヒノキ球果に移動して、吸汁・産卵する。しかし、本年のスギ・ヒノキ科花粉総飛散数が平年の8.9%と少なく、7月上旬に行った6か所の現地調査でもスギ・ヒノキ球果の着果量が少なかった。
- (5) 本年は果樹カメムシ類の越冬成虫量が多く、餌となるスギ・ヒノキの球果が少ないことから、果樹カメムシ類の越冬成虫が餌を求めて再び7月中に果樹園へ多飛来する可能性が高いと予想され、今後収穫する果樹類に被害が発生する可能性がある。

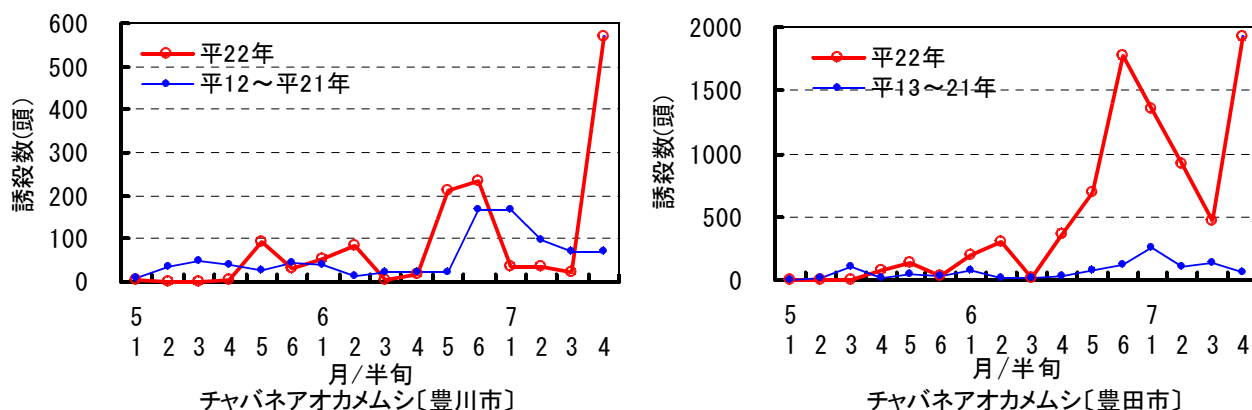


図 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシ成虫の誘殺数
（※7月第4半旬は、7月19日までの数値）

4 防除対策

- (1) 果樹カメムシ類は局地的に飛来し、集中的に加害する傾向がある。また、園地間差が大きいので、過去にカメムシ類の被害が多かった園では特に注意する。
- (2) カキでは、早生品種に早く飛来する傾向があるので、これらのほ場では、周辺部における成虫の飛来を確認する。
- (3) 例年、カンキツでは7月に幼果が被害を受けることは少ない。しかし、本年は被害が発生する可能性が高いので、注意する。
- (4) 飛来を確認したら、次表を参考に残効の長い合成ピレスロイド剤もしくはネオニコチノイド剤を散布する。

(5) 農薬の散布に当たっては、他の農作物や人畜に害を及ぼさないよう飛散防止に努める。

(6) 農薬はラベル表示事項を守り使用する。

表 カメムシ類に対する主な防除薬剤と使用基準

作物名	薬剤名	系統	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
モモ	アドマイヤー水和剤	ネオ	1000倍	収穫3日前まで	2回以内
	MR. ジョーカー水和剤	ピレ	2000倍	収穫前日まで	2回以内
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	ネオ	2000倍	収穫前日まで	3回以内
ナシ	MR. ジョーカー水和剤	ピレ	2000倍	収穫14日前まで	2回以内
	アドマイヤー水和剤	ネオ	1000倍	収穫3日前まで	2回以内
	テルスター水和剤	ピレ	1000～2000倍	収穫前日まで	2回以内
	ダントツ水溶剤	ネオ	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	ネオ	2000倍	収穫前日まで	3回以内
	スカウトフロアブル	ピレ	1500倍	収穫前日まで	5回以内
ブドウ	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	ネオ	2000倍	収穫7日前まで	2回以内
カキ	テルスター水和剤	ピレ	1000～2000倍	収穫14日前まで	2回以内
	MR. ジョーカー水和剤	ピレ	2000倍	収穫14日前まで	2回以内
	ダントツ水溶剤	ネオ	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内
	アドマイヤー水和剤	ネオ	1000倍	収穫7日前まで	3回以内
	スカウトフロアブル	ピレ	1500倍	収穫7日前まで	5回以内
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	ネオ	2000倍	収穫前日まで	3回以内
カンキツ	MR. ジョーカー水和剤	ピレ	2000倍	収穫14日前まで	2回以内
	モスピラン水溶剤	ネオ	2000～4000倍	収穫14日前まで	3回以内
	ダントツ水溶剤	ネオ	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内
	アグロスリン水和剤	ピレ	2000倍	収穫7日前まで	5回以内
	テルスター水和剤	ピレ	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内

注) 系統の「ネオ」はネオニコチノイド剤、「ピレ」は合成ピレスロイド剤であることを示す。

5 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除グループ

電話: 0561-62-0085 (内線471)